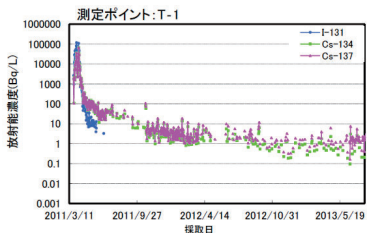
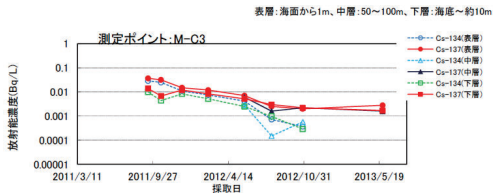


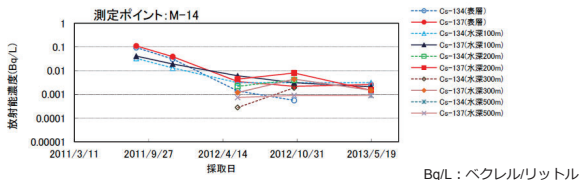
## 福島県沿岸の海水の放射能濃度の推移



## 福島県沖合の海水の放射能濃度の推移



## 外洋の海水の放射能濃度の推移



震災後から平成25年7月31日まで

Bq/L : ベクレルリットル  
原子力規制庁ホームページ放射線モニタリング情報から作成

セシウムが付着した土壌は川を經由して沿岸まで運ばれます。陸地近くの沿岸の海水の放射能濃度は事故直後は、10万ベクレル/Lに上昇しましたが、1か月半後には、1,000分の1の100ベクレル/Lに下がり、更に、1年半後には、10ベクレル/Lに下がりました。陸地から50km 沖合の海水濃度の測定は、表層が海面から1m、中層が50～100m、下層が海底もしくは海底から10m上の海水で行われています。表層では親潮や黒潮、また、風の影響で海水の流れができます。中層は表層の流れで海水の流れができます。下層の海底及びその近辺ではよどんでいる状況です。セシウムは土壌に付着しており、その土壌は海底土もしくは、それが巻き上げられて、中層、表層に運ばれます。事故から半年後には、沿岸からの放射性物質を含んだ土壌が陸地から30kmの沖合まで運ばれましたが、沖合の測定ポイントM-C3での濃度は0.05ベクレル/Lと沿岸濃度の200分の1まで薄まっています。2012(平成24)年には、放射能濃度の高い海底近くでも0.008ベクレル/Lまで下がっています。それに伴い、表層や中層も下がっています。陸地から180km離れた外洋では、事故から半年後も表層の濃度が30km沖合の濃度と同じ程度の0.1ベクレル/Lとなっています。事故から2年後には、0.001ベクレル/Lと更に2桁下がっています。

本資料への収録日：2014年3月31日

本情報は事故当日(2011年)～2013年の情報です。

関連 Q&A

- ・3章 QA1 モニタリングの実施状況について教えてください
- ・3章 QA2 セシウムをはじめとする放射性物質の汚染状況の調査はどうなっていますか
- ・3章 QA5 海のモニタリングの実施状況はどうなっているのですか
- ・3章 QA12 雨水や日常食のストロンチウム90やセシウム137はどのようにすれば測れるのですか